

>>>>つづき

縦にも横にもベクトルが広がるようなものを

今気になっていることというか、2020年の東京オリンピックのメインスタジアムで国産木材がフィーチャーされた時に、宮崎の林業のことがなんとなく思い浮かんできて…。横軸の両端に、宮崎と日本の首都「東京」を据えると、宮崎の林業の現場と東京が横軸で結びついていくのかなと考えています。

縦のベクトルは、土地の力が持っている長い時間軸。今回の取材で特に強く感じたのが、時間の流れだったんです。東京にいと、ものすごいスピードでいろんなことが動いていて、やっぱり慌ただしい。昨日は建ってなかったものが建っていたり、日を追うごとに変化していく慌ただしさが東京にはあるんです。神楽の一夜を体験するという事は、時間の流れに身を浸すということでもありますが、そういう時間を過ごしたのが自分自身も久しぶりでした。時間をみんなで分かち合うということもかなり貴重だと思いましたし、暮らしの時間がそのまま等身大で流れているということが、一番びっくりしたんです。縦にも横にもベクトルが広がるようなものが書けるといいなと思っています。



神楽は夜を徹して奉納された

神楽がもつ時間の流れを物語にも…

神楽の場合は、土地の神様と同時に、祖先の霊も一緒に呼び出してきたり、そのゆったりした時間は、人間のためだけの時間だけではなくて、神様とか森の妖怪たちと一緒に過ごす時間でもあって。だから、人間が生き急ぐ時間よりも少し長い時間で、そのひとときを楽しもうというのが神楽にはあると思います。今回の作品は現代劇なんですけど、そういうちょっと遙かな過去だったり未来だったり、人間が生きている時間よりももう少し長い時間も、取り込めた物語ができればいいなあと、いま色々考えています。



主演は、昨年大河ドラマ『おんな城主 直虎』での「六左(ろくざ)」こと、奥山六左衛門役の好演が記憶に新しい田中美央さん。

宮崎県立芸術劇場プロデューサー
「新かぼちゃといもがら物語」#2
『神舞の庭』(かみまいのにわ)
宮崎の土地や人をモチーフに、地域社会が抱える課題などを見つめた演劇作品を創作・上演するシリーズ。
第一弾となった前作は、京都の劇作家・土田英生さんの脚本で、地域社会の間をリアル且つユーモラスに描き、好評を得ました。
第二弾となる今回は、次々に名のある戯曲賞を受賞し、いまも注目を集める劇作家長田育恵さんが、神楽の風習が残る山間の集落を舞台に、神楽舞を受け継ぐ家族が過ごす祭りの一夜を描きます。
宮崎発の舞台にどうぞ期待ください。

公演情報

「新かぼちゃといもがら物語」#2

かみまい にわ
『神舞の庭』

2018年2月28日(水) ▶ 3月4日(日) [5日間開催(5ステージ)]

平日 19:00 開演 / 土日 14:00 開演 ※3/3(土)は、終演後にアフタートークあり

【会場】メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) イベントホール

【料金】<全席自由>

一般 3,500円(会員 3,100円) U25 割 1,500円 ペア割 6,000円(会員 5,400円) ※前売りのみ

【出演】

田中美央 内田淳子 実広健士 松本哲也 古賀今日子 森岡光 片渕高史 成合朱美 河内哲二郎